

ポリフェノールの酸化されやすさを利用した 新しい機能性物質の開発

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 教授 増田 俊哉

ライフサイエンス

キーワード：生物資源利用, ポリフェノール, 酸化, 機能性物質, 生物資源利用

ポリフェノールは、食用や薬用植物に多く含まれる第7の栄養素とも言われる物質です。最近、ポリフェノールに、様々な健康機能があることがわかって来ており、その利用が望まれています。しかし、ポリフェノールは、本来安定なものではなく、利用には注意が必要です。

ポリフェノールの不安定性は、その酸化されやすさによります。酸化されやすさは、ポリフェノールの抗酸化機能の発現とも関係し、防ぐことができません。

それでは、ポリフェノールを積極的に酸化させたらどうでしょうか。酸化により化学構造が変化し、機能も変化するはずですが。これまでに発見されたポリフェノールの機能の一部は、酸化されたポリフェノールによるものかもしれません。(と私たちは考えています。)

この研究は、ポリフェノール酸化物に、元のポリフェノール以上の機能を見つけようとしています。安定で高機能なポリフェノール機能性物質の発見を目指しています。くわえて、ポリフェノールを含む地域の植物資源の産業化にもつながることを願っています。

■ 想定される用途(応用分野)

植物資源由来の機能性物質として知られるポリフェノールに、更なる機能を付加することで、高度の利用可能な機能性物質として、健康食品・化粧品・食品添加剤への利用が可能

■ パートナー(産業界)への要望

物質の実用化に向けた様々な評価についてパートナーを希望。

高機能性酸化ポリフェノール

